



# むさしだい

学校だより 6月号 Web

平成28年5月31日

中野区立武蔵台小学校

校長 戸崎 晃

経験しなければ得られないもの

～ 子供たちの「今」を逃さずに ～

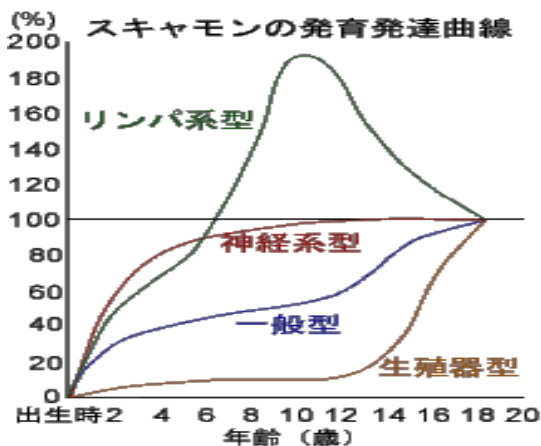
校長 戸崎 晃

体育関係の講演会での講師の方のお話です。「世界トップレベルのサッカー選手に、今、逆上がりはできますか?と尋ねたことがあります。すると、あまり自信がありませんという答えが返ってきました。よくよく聞いてみると子供の頃から逆上がりをやった経験がほとんどないとのこと。大きくなってからやってみて、逆上がりができたことはあるけれど、今はできないかも…。ということでした。」

体育や保健を研究している者であれば、この話は当たり前のように感じられます。そして、(だからこそ小学校のうちに子供たちに様々な経験をさせなければ…。)と使命感に燃えてきます。

人間が成長していくとき、様々な器官や機能はそれぞれ個々に発達し、最も吸収(身に付ける)しやすい時期があります。その時期を表したものを「スキヤモンの発達・発育曲線」といいます。

※ 誕生から成熟期(20歳)までの発育量を100%とした割合を表しています。



最も吸収しやすい時期に、適切に機会・課題を与えることで、発達に必要なかつ効果的な成果が得られると考えられます。

神経系統は、生まれた直後から4~5歳までに約80%成長し、12歳頃には100%近くになるとされ、一度その経路ができるとなかなか消えないので、この時期にいろいろな動きを覚えることがその後大きく影響すると言われています。

- ※ 神経系(脳、脊髄、視覚器、頭径)は、リズム感や体を動かすことの器用さを担う。
- ※ 子供の頃に、一度自転車に乗れるようになると、その後何年間も乗らない時間があっても、すぐに乗れてしまうようになる。つまり、この時期までにできた神経経路はなかなか消えることはない。

12歳を過ぎてしまったからの経験は刺激にはなりますが、新たな神経回路の形成に至るには難しいのでしょうか。世界トップレベルのサッカー選手でも、経験していない逆上がりという動きを身に付けることは困難だったようです。

私たち大人は、子供の発達・発育に関して、しっかりと知識を得ておくことが必要です。「そのうちできるから…。」と何の対処もしなければ時期を逸してしまいます。もちろん、吸収には個人差がありますが、小学校の6年間で、大人にとっても子供のためにできる最後のチャンス!ととらえ、学校だけでなく、家庭でも学習面や運動面で様々なことを経験する機会をつくっていくことが大切です。

6月は「ふれあい月間」であると同時に「体力向上月間」でもあります。学校では、子供たちをとりまく環境の変化のために日頃なかなかできない【ボールを投げる】という動きを、全児童に楽しく経験させることにも取り組んでいます。